

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析について

本年度5月に、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生をはじめ全学年において、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

## 1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数に関する調査
- ◆児童質問紙調査 生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

## 2. 調査結果の概要と課題

## ◆調査結果の概要

国語 全国値を上回っている

算数 全国値を上回っている

## ◆正答率の低い問題から見える課題について

誤答から、課題を明らかにするために、正答率の低かった問題について取り上げました。

科目	学習指導要領の内容	正答率の低い問題から見える課題
国語	読むこと	・目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を読み取り、そこから要約すること。
	書くこと	・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように工夫して書くこと。
	伝統的な言語文化と国語の特質	・漢字を文の中で正しく使うこと。 ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉えること。

科目	学習指導要領の領域	正答率の低い問題から見える課題
算数	数と計算	・問題文の内容を理解すること。 ・例題の解き方を他の場合に適用して立式した際、その理由を記述すること。
	図形	・図形の性質や構成要素に着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を記述すること。
	データの活用	・複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を求め、記述すること。

### 3. 教科に関する分析と今後に向けて

#### 国語

本校の平均正答率は全国値を上回っている。すべての内容において良好な結果であった。

しかし、「読むこと」の思考力・判断力・表現力等や記述式の問題に課題が見られた。

- ① 文中から目的に応じて必要な情報を読み取ったり、整理したり、再構成したりする力に課題が見られる。そのために、国語科以外の教科においても、文章と図やグラフ等の関係を捉えて読むことができるように指導していく。また、調べ学習のまとめの際に、文中から内容の中心となる語や文を選び、端的に要約できるように指導していく。
- ② 「書くこと」については、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導をしていく。事実と感想・意見とを区別し、自分の考えとそれを支える理由や事例の関係性が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けされているかなどを確かめて、自分の考えを深めることができるように指導していく。
- ③ 日記や作文を書く際に、修飾語を加えて詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのか明確にさせたりすることを指導していく。また、修飾語は離れた語句を修飾する場合もあることも、指導していく。

#### 算数

本校の平均正答率は全国値を上回っている。すべての領域において良好な結果であった。

しかし、記述式問題については、正答率が低く、無答が見られることから、以下の点について留意しながら指導していく。

1. 算数用語の意味を理解すること
  2. 数量関係に着目して考察すること
  3. 言葉や式を用いて簡潔・明瞭・的確に説明すること
  4. グラフや表を的確に読み取り、根拠をもって論理的に話すこと
- ① 「数と計算」の領域については、問題文から数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面をふり返ったりすることができるように指導していく。
  - ② 「図形」の領域については、図形を構成する辺などに着目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導していく。
  - ③ 「データの活用」の領域については、算数科以外の教科においても統計的に問題解決するため、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるように指導していく。

### 4. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向と今後に向けて

自分自身のこと	自己肯定感 自己有用感 将来の夢	「自分にはよいところがある」という質問に対して、肯定的な回答が全国値をやや上回っている。 一方で、「人の役に立つ人間になりたい」と感じている児童や、「友だちとの協力することが楽しい」と感じている児童の割合は全国値をやや下回っている。 今後も、学校行事を児童自らが企画、実施、ふり返ることを通して、共に作りあげる良さを実感できるように取り組んでいく。
家庭生活	生活習慣	睡眠時間について定まっていない児童が、全国値をやや下回っている。 携帯電話・スマートフォンなどの使用については、全国値よりも多くの児童が所有している傾向がある。また、使用している時間については、1時間未満の児童の割合が多いことがわかった。 今後も、「生活ふり返り調査」を引き続き実施し、考察した結果を学校・学年だより等を通して家庭へ発信し、連携を図っていく。
	読書について	家庭での本の所有数は、全国値を上回っており、多くの児童が100冊以上の本を持っていて読書に親しんでいる。また、平日に30分以上読書をしている児童も多いことがわかった。
	地域について	昨年度はコロナ禍の影響もあり、地域行事も少なく、参加している児童の割合も多くはなかった。
	家庭学習について	「自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合は、全国値を上回っている。また、1時間以上勉強している児童の割合が、平日は約7割、休みの日には約8割ということがわかった。 今後も、Sun ネット端末も活用し、家庭と連携した取組を行っていく。
	ICT 機器について	ICT 機器の使用について、「学習の中で役に立つ」と多くの児童が感じているが、「5年生までに、授業中に使用してきた」と回答した児童の割合は、全国値を下回っていた。2学期以降は、持ち帰りも始まり、授業での使用頻度を増やしていく。

学校生活	学校について	<p>「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対し、肯定的な回答の割合が、全国値を下回っていた。</p> <p>今後も、学校での行事を見直し、児童に達成感や満足感を促す活動を検討し、集団の育成に取り組んでいく。</p>
	主体的・対話的で深い学びの視点から	<p>「勉強は好きですか」、「勉強は大切だと思いますか」、「学習したことは、将来、社会に出た時、役に立つと思いますか」という質問に対して、算数科では肯定的な回答の割合が全国値をやや上回っていたものの、国語科ではやや下回っていた。</p> <p>今後も、自ら学びたいような意識付けや働きかけを工夫し、他教科と関連付けたり、自らの日常生活に関わることを話題にしたりすることで、興味関心を持たせ、自分から学習する方法を身につけていけるように指導していく。</p> <p>「自分の考えをしっかりと伝えていましたか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が全国値を上回っている。一方で、「工夫して発表していた」「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対して、肯定的な回答の割合は全国値を下回っていた。昨年度はコロナ禍で、発表の機会が十分でなかったことも考えられる。今後は、学習したことを校内の同学年や異学年、地域に発信していけるよう、計画を立てていく。</p> <p>「自分の考えを深める・広げる」「自分で課題を決める」「結果を見直して次に活かす」ことができていると回答した児童の割合が全国値を下回っていた。</p> <p>今後も、総合的な学習等においては、自ら課題を決めて取り組み、学習後にふり返し、次の学習に繋げる場面を設定していく。</p>
	英語について	<p>多くの児童が、英語の勉強が好きだと感じているという結果が見られた。今後も、英語の学習に対して、興味・関心が持てるような工夫を進めていく。</p>
	新型コロナウイルス感染症について	<p>休校期間に「勉強について不安を感じた」という児童が全国値をやや上回っている。一方で、「計画的に学習を続けた」「規則正しい生活を送っていた」という児童の割合は全国値とほぼ同じであった。</p> <p>今後も、Sun ネット端末を有効に活用していくための取組を進めていく。</p>

## 5. 今後の取り組みについて

教科学習において、国語科、算数科の概要は、全国値を上回り良好な結果ではありますが、記述式問題の正答率が低いことが課題です。まずは課題を読み取る力、設問に正対した表現力（文章力）、粘り強く課題に向き合う姿勢等の育成が肝要です。

本校の校内研修のテーマである「子どもが『考えたい』『伝えたい』と思える授業づくり」に基づき、学び合う集団づくりを進めてまいります。学習形態も工夫し、これまで以上に、問題解決型の授業を実践したり、子どもを学びの主体となるように授業改善をすすめたりすることで、さらなる学力向上を目指してまいります。

生活習慣や学習環境等の結果からは、自己肯定感・自己有用感をさらに高め、社会的課題に対する規範意識を持ち、生活の中で生かしていく力の育成に取り組んでいきます。

これからも様々な教育実践を展開する中で、人間関係作りとともに、一人ひとりの自尊感情や自己肯定感を育み、多様な個性・価値観を認め合い、他者を思いやる人権感覚豊かな人間性を培うことに努めてまいります。

今後も継続して、学校教育目標「自分の力で未来を拓く子どもの育成」の具現化を目指し、児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう安心で安全な環境づくりに努めるとともに、児童一人ひとりの自己実現が図れるよう実践を積み上げてまいります。